

(2025 年度) 日本認知・行動療法学会 SIG 活動報告書

1. 日本認知・行動療法学会 SIG 名 (スポーツと認知行動療法 SIG)
2. 記入者 (立命館大学 井上和哉)
3. 一年間の活動実施報告 (各企画の日付、SIG の参加者、実施した活動の内容や成果、業績などについて報告してください。なお、SIG で開かれる活動において、年会費や参加費などで収入が発生した場合、収支報告 (様式任意) を別途提出してください。)

	活動内容、成果、業績等
8月12日	第6回スポーツ×CBT (認知行動療法研究会) 発表者 川崎紗和子先生 (同志社大学) タイトル: 高校生アメリカンフットボール部を対象としたマインドフルネスベースの介入研究: 研究計画
8月23日	日本認知・行動療法学会第51回記念大会 ・自主企画シンポジウム (SIG としての活動報告) タイトル: 「認知行動的アプローチが中高生のスポーツ活動にどのように貢献できるか」 企画、話題提供: 平田大智 (関西学院大学大学院文学研究科)、司会: 榎本恭介 (清和大学)、話題提供者: 高山智史 (長野大学)、相本秀彦 (上宮高等学校)、指定討論: 桂川泰典 (早稲田大学) ・SIG ネットワーキング 学会期間中にスポーツと認知行動療法 SIG に関心がある者が集い、研究発表、情報交換、交流を行った (90 分間)。
2月24日	第7回スポーツ×CBT (認知行動療法研究会) 今後の SIG 活動の方向性について検討を行った。
3月13日	翻訳書籍の出版『スポーツにおけるマインドフルネスとアクセプタンス』 編者: K. ヘンリクセン、J. ハンセン、C. H. ラーセン、監訳者: 井上和哉、栗林千聡、訳者: 並木伸賢、深町花子、佐藤徹男、吉本 学、金澤潤一郎、榎本恭介、柳澤博紀、直井愛里

4. 次年度の活動予定（300字程度）

①スポーツ×CBT（認知行動療法研究会）を3回程度実施する。研究会では、毎回、2名程度が研究、事例、研究構想などを発表し、それに対してディスカッションを行う。参加者についてはSIGのウェブページより随時募集中である。②アスリートに対する認知行動療法やアクセプタンス&コミットメント・セラピー、マインドフルネスなどの進め方について体験会を実施する。③一般の方やアスリート向けの公開シンポジウムを開催し、アスリート支援の研究内容を広く届けることを目指す。